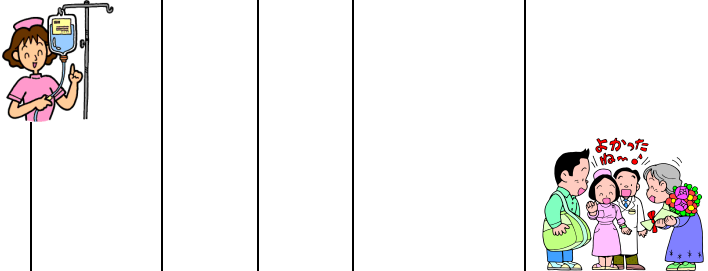




## 頸部郭清術を受けられる患者さんへ

患者氏名

受け持ち医師:

受け持ち看護師:

項目	月日 / /	(入院日/手術前日)	(手術当日)	(術後1日目)	(術後2日目)	(術後3日目)	(術後4日目)	(術後5日目)	(術後6日目)	(術後7日目)	(術後8日目)	(術後9日目)
達成目標		入院の目的が理解できる 入院時の説明が理解できる	手術後の安静を守ることができる 感染予防策を行うことができる								創部感染所見がない 熱発37.5度以下である	心理・社会面に問題がない 退院指導が理解できる
治療・薬剤 (点滴・内服) ・処置 ・リハビリ		入院時、持参したお薬の確認をします 抗血栓薬(血液を固まりにくくする薬)を内服 している場合はお知らせください  ポピヨドンガーグルでの口腔ケアを開始し ます  毎日、医師の診察があります 平日(8時30分~) 火曜日(7時30分~) 土日祝日(9時~)	<手術前> 手術の前に、手術着に着替えます 手術が2番目以降の場合、9時頃か ら点滴が開始となります 朝の内服薬は、医師が指示したも のを内服します 必要時、弾性ストッキングを履き ます 手術前に口腔ケアを行って下さい  <手術後> 病室に戻ったら、酸素マスク、心電図 をつけます。数時間後に医師の指示 に従って酸素吸入や心電図を終了 することがあります 傷の痛みが強い場合は坐薬や点滴 などの痛み止めを使用します 創部に血を抜くための管が入り ます(手術後の状態により、管が 抜ける時期が決まります) 抗生物質の点滴を2回/日(朝・夕) 行います 持続点滴は継続します	着替えをします 弾性ストッキングを履いている場 合は、歩行開始後に脱ぎます				抗生物質の点滴 は夕で終了です  医師の許可が出 たら、持続点滴が 終了します				
検査		外来で採血や肺機能検査、胸部レントゲン 検査を受けていない場合は、入院時に受けます	採血			採血		採血		採血		
活動・安静度		制限はありません	手術後は、数時間はベッド上安静とな ります。その後は、歩行可能となり ます 最初の歩行は看護師が付き添いま す 	制限はありません								
食事		夕食までは制限はありません  麻酔科医師の指示に沿って、絶食や水分 制限を行います	基本的に1日絶食です 腸蠕動音を確認し、医師の指示で飲 水やゼリーなどの軽食が開始となり ます	高5分粥食が開始になります		7分粥食		全粥食				
清潔		制限はありません	入浴はできません	入浴・シャワー浴はできません  温かいタオルで体を拭きます				医師の許可が出たら、シャワー浴が できます 創部の管が抜けるまでは、首から下 のみシャワーをあびます 洗髪を行います			管が抜けたら全身のシャワー浴が 行えます	
排泄		制限はありません	状態に応じて、尿の管が入ります 尿の管がない場合は、医師の許可が 出るまではベッド上で尿器を使用 して排泄します。安静が解除とな れば、トイレで排泄することはでき ます	尿の管が入った場合は尿の管を 抜きます				制限はありません				
患者様及びご 家族への説明 栄養指導 服薬指導		入院後は、病棟内をご案内し、入院生活 について説明します  手術のオリエンテーションを行い、手術 当日や翌日以降の説明をし、術前 の準備を致します  口腔ケアの方法は、パンフレットで 説明します  必要時は、弾性ストッキングのサイ ズを測定し準備します  医師から手術についての説明があ ります									退院後の生活を踏まえて、看護師 が退院指導をします 状況を見て、薬剤師による薬 剤指導があります  	

注:イラストはMPCのイラスト集より転載

この経過表は治療期間中のおおよその経過をお知らせするものです。諸所の理由で経過通りにいかない場合もありますことをご了承下さい